



20年目のスタートライン。次世代へつなぐ『地域とともにある学校』

田中小学校 校長 藤岡 正樹

今年度も、多くの保護者の皆様や地域の方々から温かいご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

さて、本校は今年度、コミュニティ・スクール活動「20年目」という大きな節目の年を迎えました。20年前、県内初のコミュニティ・スクールとして産声を上げた本校が、今日までこの歩みを止めることなく歴史を紡いでこられたのは、ひとえに「子どもたちのために」と力を尽くしてくださった全ての皆様の「思いのリレー」があったからこそです。

20年目を迎えた今年度は、昨年度からの課題でもあった「対話」を大切に活動を進めてまいりました。保護者や地域の方々による「わくわく委員会」や「つなぐ委員会」等の活動では、子どもたちの笑顔のために何ができるかを膝を突き合わせて話し合い、より充実した「わくわくスクール」や学校行事の支援を実現することができました。また、田中まちづくり協議会の皆様との連携による地域行事への参加など、学校の中だけでは得られない貴重な経験の場を子どもたちに提供していただきました。こうした多くの大人たちが「協働」し、楽しみながら活動する姿、それこそが、子どもたちにとって何よりの生きた教材であり、田中小学校の誇るべき財産であると改めて実感した一年でした。

社会情勢は刻々と変化していますが、「地域とともにある学校」としての田中小学校の役割は、これからも変わりません。20周年という節目は、ゴールではなく、次なるステージへのスタートです。これまでの歴史に深く感謝しつつ、これからの10年、20年先を見据え、予測困難な未来をたくましく生き抜く子どもたちの力を育むために、引き続き皆様と手を取り合って歩んでいきたいと考えています。

コミュニティ・スクール 20年目の田中小学校を支えていただき、本当にありがとうございました。来年度以降も、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

6年生を送る会

3月5日(木)に、6年生を送る会が開催されました。1年生から順番に、お世話になった6年生と一緒にゲームやクイズなどで交流し、最後に6年生からは、一生懸命練習した力強い太鼓の演奏が披露されました。

毎年、送る会が開催されると、卒業していく6年生とお別れの日が近づいていることを実感し、とても寂しい気持ちになります。

6年生たちが、たくさんの楽しい思い出をもって中学校へと巣立っていけるように、全校生で考えた『6年生を送る会』は、温かい思い出が詰まった楽しい時間となりました。



教科別学習サポーター参加状況(延べ人数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
生活科	15	15					30
田中っ子学習	4		18	10	16	7	55
家庭科						7	7
社会			7	18	4	2	31
特別活動	10						10
合計	29	15	25	28	20	16	133

今年度も、田中っ子たちのために、いろいろな方々が学習活動に関わってくださいました。

学習サポーターの方の他にも、あいさつ隊、読み聞かせ、本の修理等でコミュニティ・スクールの活動に参加して頂きました。

来年度も「地域と共にある学校」を目指して取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

第4回 学校運営協議会

3月11日(水) 16:00~

【議事内容】

(1) 報告

- ① 田中っ子きらきら学びDAY アンケート結果について
- ② 学校教育活動について
- ③ コミュニティ・スクール各部会の活動について
- ④ 学校関係者評価について

(2) 協議(意見)

- ① 次年度のコミュニティ・スクールについて
- ② 次年度の学校運営について



○学校関係者評価から、児童と保護者の認識に差がある。・・・家庭でのコミュニケーション不足が要因の一つと考えられるため、ブログや学年だよりなどの発信を工夫し、活動のメリットや価値を伝えるようにする。

○保護者の主体的な関わりについて・・・多くの保護者が『自分がどの立場で何をすべきか』を理解せず参加しているため、心理的な負担(やらされている感)が強い。親が、『めんどろが行かなければいけないから行く』という後ろ向きな姿勢で活動していると、子どもに負の影響を与えてしまうので、親自身がワクワクし、自己成長を楽しめる組織にするべきではないか。

○組織を整理し、本部役員を中心とした一本化された組織にすることで、熱量を上げ、スピード感を持って動ける体制になるのではないか。

○正解のない問いに対し、自ら考えを述べる経験をさせてほしい。

○子ども自身が学校経営に参画する『こども委員』を作り、学校運営協議会に参加するのはどうか。

○簡単に答えが出ない事態に耐える力(レジリエンス)を、養っていくことが必要。乗り越えた先に自尊感情が生まれる。

○委員の人の会議への出席率の低下・・・たくさんの人の意見を必要とする会なので、出席できる人に委員を依頼してはどうか。

第3回 評価部会

2月18日(水) 16:00~

○確かな学力を育む活動・・・○学習サポーターの方々のお陰で、深い学びにつながった。

○αドリルを楽しんで取り組めた。

○がんばる勉は、アドバイスを聞き、自分の学びにつながった。

☆がんばる勉を充実させるために、やり方を各学級で指導していく。

☆にこにこ学習週間の意図を明確にするために、自分のめあてを立てて、振り返りができるようにする。

☆『すて木』の取り組みを『豊かな心を育む活動』の方に移行する。

○豊かな心を育む活動・・・○あいさつ隊の募集をし、6月に総会を行った。

○全校掲示の取り組みを行った。

○ありがとう集会を実施した。

☆あいさつが苦手な児童もいるので、大人から声をかけて会釈で返ってきてもいいのではないか。

☆『すて木』と『全校掲示』を組み合わせた取り組みにしてはどうか。

☆『ありがとう集会』に全校生や各学年でお世話になった方々にたくさんお越しいただき、感謝の気持ちを伝えることができた。

○健やかな体を育む活動・・・○家族げんき会議では、各家庭で話し合いが行われており、保護者への意識づけにも繋がっている。

○親子料理では、提出率も高く楽しんで取り組んでいた。

☆児童の意識を継続させるために、各チェックカードの取り組みの流れが分かる一覧表(すごろく形式)を配布する。

☆『浮いて待て』は3年生以上で実施し、1、2年生は水泳の授業で浮く練習を行う・・・1、2年生にも水難事故に備えるための学習をさせて欲しい。

【来年度に向けて】

★コミュニティ・スクールの活動について、学年だより等を通して、コミュニティ・スクールの意義や活動の様子を積極的に発信していく。

★わくわくスクールは、児童に大変好評なので、継続して実施していく方向で考えていくが、実施方法は再検討。

